

健康生活支援実習（こどもと家族）

《担当者名》 木浪 智佳子 kinami@hoku-iryo-u.ac.jp 川崎 ゆかり 谷本 真唯

【概要】

成長・発達過程にあるこどもと関わる体験を通して、様々な健康レベルのこどもとその家族に対する看護援助を学ぶ。

【学修目標】

あらゆる健康レベルにあるこどもとその家族の特徴を理解し、状況に応じた看護を実践するための基礎的能力を身につけ、こどもと家族を支援する多職種連携のあり方とチームにおける看護の役割を理解する。そのために以下を目標として学ぶ。

1. こどもや家族の特性を考慮した言語的・非言語的コミュニケーションをとることができる。
2. こどもの成長・発達段階、疾患や障がいの程度、治療・検査が、こどもや家族の日常生活に及ぼす影響を系統的にとらえる。
3. こどもの個別性や倫理面に配慮し、こどもの力を引き出す看護を考え、実践し、評価を行う。
4. こどもと家族を支援する様々な人々との連携を通して、看護職の役割について考える。
5. 専門職業人としての自覚を持ち、実習学生としての責任と役割を果たす。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1週目	・ 疾患や障がいがあるこどもと家族の生活に及ぼす影響の理解 ・ こどもと家族の状況に応じた看護の検討と実践 ・ こどもと家族に関わる多職種連携を通じた看護職の役割の理解	・ こどもと家族の特性を考慮したコミュニケーションをとる。 ・ こどもと家族に関わる情報収集とアセスメントを行い、必要な看護を提案する。 ・ 指導を受けながらこどもと家族への看護援助を実施する。 ・ こどもと家族に関わる多職種との連携を通して、看護職の役割を理解する。 ・ 1週間の実習を振り返り、実習目標の達成度を評価する。	木浪・川崎・谷本
2週目	・ 疾患や障がいがあるこどもと家族の生活に及ぼす影響の理解 ・ こどもと家族の状況に応じた看護の検討と実践 ・ こどもと家族に関わる多職種連携を通じた看護職の役割の理解 ・ 2週間を通じた実習内容の振り返りとまとめ	・ こどもと家族の特性を考慮したコミュニケーションをとる。 ・ こどもと家族に関わる情報収集とアセスメントを行い、必要な看護を提案する。 ・ 指導を受けながらこどもと家族への看護援助を実施する。 ・ こどもと家族に関わる多職種との連携を通して、看護職の役割を理解する。 ・ 2週間の実習を振り返り、実習目標の達成度を評価する。	木浪・川崎・谷本

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

1. 評価表は、学生・教員ともにルーブリック評価を用いる。事前学習、実習目標達成度、記録物の内容・提出状況、実習参加態度を総合して評価する。
2. 学生は、1週目の終わりと実習最終日の2回に渡り、実習評価表（ルーブリック評価）を用いて実習目標の達成度を自己評価する。

【教科書】

小児看護学、小児病態と看護、小児看護学演習で用いた教科書

【参考書】

実習前課題である事前学習ノートに参考書一覧を掲載

【備考】

・実習に関する連絡のためにGoogle Classroomを使用する。・実習記録は、大学の在学生ポータルサイトからダウンロードし使用する。

【学修の準備】

- 1.小児看護学および小児病態と看護(2年次)、小児看護学演習(3年次)の学修内容から、こどもの発達、こどもに多い疾患と治療、こどもと家族への看護、こどもに対する倫理的配慮について、復習する。(予習1時間)
- 2.実習前に配布する事前学習ノート、病院・施設別課題を作成し、臨地実習で活用できるように準備する。(予習1時間)
- 3.毎日のこどもと家族と関わった経験を振り返り、実習記録に学びを整理する。(復習1時間)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP3:社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP2:看護専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP4:保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【実習方法】

実習期間:3年後期の指定された2週間。

- 1.2026年9月10日~9月25日
- 2.2026年11月2日~11月13日
- 3.2027年1月12日~1月22日
- 4.2027年1月25日~2月5日
- 5.2027年2月8日~2月19日
- 6.2027年2月22日~3月5日

実習施設:札幌厚生病院、JCHO北海道病院、手稲溪仁会病院、札幌徳洲会病院、済生会小樽病院みどりの里、医療福祉センター札幌あゆみの園、大倉山学院、北海道立子ども総合医療・療育センター、児童デイサービスセンターamaririsu・kaede、児童発達支援センターたくあいアクティビティ「むう(夢)」、多機能型重症児者デイサービス「モアナ」「ラナキッズ」、北海道医療大学病院

【実務経験】

木浪 智佳子(看護師)、川崎 ゆかり(看護師)、谷本 真唯(看護師)

【実務経験を活かした教育内容】

小児看護学及び母子保健の実務経験を通じて得た知識・技術・態度を活用し、実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している